

私が生まれて二日目。母が私が生まれた病院の医師から病院を紹介された。心雑音が聞こえたためだ。

大きな総合病院に行き、私には先天性の心臓疾患があることがわかった。生まれて間もない、まだ私の名前もついていない時期に。

父と母は、まだとても小さい私を見て、何としても助けたい、と思ったそうだ。

心臓病といっても、病状があまりないものから、放っておくと命の危険があるものまで様々だ。

私の病気は後者の方で、早く手術が必要な病気だった。心臓の手術は大掛かりである。人工心肺につないで行うために、ある程度体重が増えて私が大きくなるまで、母は何度も病院へ行き、何度も診察を受けさせた。

一歳の誕生日の前に、私は東京の大きな病院で心臓の手術を受けた。本来ならかかる費用は四百万円以上と莫大なものだった。

しかし、医療制度が整っている日本では、そのうち何割かの負担で済む。私の場合も、東京で手術を行い、何週間も入院したのだが、かかった費用で両親が心細くはならなかったそうだ。

人の命は尊い。私の命もこのようにして、色々な人や、税金によって助けられた。

まだ記憶がなかったころの手術によって、今私は元気に生活できている。私の大好きな運動も続けられるし、不自由だなと思ったことは今までで一度もない。だから私は色々な人に感謝しながら生きていきたい。

税金といえば、何となく「払わなければいけないもの」というイメージがあると思う。

でも、私や私の家族の様に、その税金から心理的に助けられている人はそう少なくはないと思う。

これから、私が大人になり、人生を歩んで行く上で、色々なことに会おうと思う。その先々で、今度は、他の人が幸せな生活を送ることができるように、私の小さかった頃のエピソードを思い出し、自分にできる最大限のことをやっていきたいと思う。